産総研テクノブリッジセミナー 2018 in 福井

革新的な新製品のアイディアがあっても、限られた自社のリソースだけでは開発が難しい・・・そんなお悩みをお持ちの企業様に朗報！　2300名超の研究職員を擁する日本最大級の鉱工業系研究機関、国立研究開発法人産業技術総合研究所が、オープンイノベーションのツボを福井県企業の皆様にお伝えするセミナーを開催します。「オープンイノベーションって面白そうだけど、じゃあ、いつやるか？」「今でしょ！」

2018年 2月15日(木) 13時～17時
福井県工業技術センター 研修棟1階 C101室
定員40名（要事前登録）

参加費無料

▼ プログラム

13:00 主催者挨拶

13:05 来賓ご挨拶

第1部　今でしょ！ オープンイノベーション （13:10 ～ 14:30）

13:10

まずはやってみよう！　オープンイノベーション

産総研イノベーション推進本部 IC　神谷 雅己

最近は経済紙の紙上にオープンイノベーションという言葉の現れない日が珍しいほどです。そのメリットに気づいた企業はますます推進しようとしますが、最初の一歩をなかなか踏み出せない企業も非常に多いのが実態です。演者は、日立化成(株)においてオープンイノベーションとして外部企業との協業を成功させた経験、させられなかった経験、両方を有します。本講演では、オープンイノベーションを成功させるための重要なエッセンスを、演者自身の経験に基づいて企業目線で解説します。

神谷 雅己
1984年　日立化成 (株) 入社
(製品開発から量産品の生産設計、電子材料分野のBtoBマーケティングを担当)
2016年　産総研入所(現職)

14:00

産総研との15年に亘る連携におけるあれこれ
～半導体プローバー装置、プラズマエッチング装置の開発～

株式会社三友製作所 代表取締役社長　加藤木 克也 様

NHKの朝ドラ「ひよっこ」の舞台である奥茨城村のモデルとも言われる茨城県常陸太田市に立地する三友製作所様は、15年に亘り産総研と連携する中で、半導体プローバー装置やプラズマエッチング装置など複数の機器を開発し事業化してこられました。オープンイノベーションの先陣を切って産総研との連携を続けてこられたご経験について、経営者の観点から率直にお話をいただきます。

加藤木 克也 様
1974年　(株)日立製作所入社
(工業計器製品の設計業務に従事
1981年　(株)三友製作所に入社1995年代表取締役に就任(現職)
2006年　茨城県工業技術研究会会長

第2部　採れたて！　技術シーズ　（14:40 ～ 15:55）

14:40

こう変わる！ 私たちの生活とものづくり現場

産総研 人工知能研究センター 首席研究員　西田 佳史

演者は、福井県大野市出身です。課題の裏にビジネスチャンスあり。人工知能・IoTを使って、生活課題の抽出から産業化までをつなげるアプローチを解説します。福井県で進行中のリビングラボを用いたヘルスモニタリングの研究も紹介します。

1998年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、通商産業省電子技術総合研究所入所。2016年より現職。
2007年 第6回ドコモ・モバイル・サイエンス賞、2012年情報処理学会論文賞など、受賞多数。

西田 佳史（大野市出身）

15:10

作りたいものを自由に作る！ 素形材加工の新しい潮流

産総研 製造技術研究部門 研究グループ長　中野　禅

鋳造・塑性加工・積層加工、古い手段でも日々新しい技術が生まれています。今まで作れなかった物が作れる！ 価値ある製品を産み出すために新しい加工技術について考えてみましょう。

1989年電気通信大学大学院機械工学専攻修士課程終了、通商産業省機械技術研究所入所。2001年NEDO副主任研究員（1年間）。
2003年電気通信大学より博士（工学）。2015年研究グループ長。2016年技術士（機械部門）。

中野　禅

15:25

食べるだけ、燃やすだけではもったいない！
ミドリムシから始まるものづくり

産総研 バイオメディカル研究部門 上級主任研究員　芝上 基成

昨今、ミドリムシは食品添加物や燃料で注目を集めていますが、ミドリムシの潜在能力はそれだけにとどまりません。本講演ではミドリムシによる廃液の処理から、ミドリムシバイオマスからつくられるナノファイバーやフィルム、プラスチックなどについて紹介します。

1989年3月大阪大学大学院工学研究科応用精密化学修士課程修了、通商産業省化学技術研究所入所。
1996年米国リーハイ大学化学科客員研究員（1年間）。2008年NEDO主任研究員（1年半）。2010年より現職。

芝上 基成

15:40

酵素が変わるとバイオマス利用も変わる！
バイオエタノール、セルロースナノファイバー、本当に大丈夫なの？

産総研 関西センター 連携主幹　石川 一彦

地球温暖化防止だけでなく、循環型社会の形成および新産業の創出による地域活性のために、バイオマスから高付加価値機能性素材への低コストで効率的な変換技術が望まれています。酵素の産業利用という観点からバイオマスの有効活用を考えてみたいと思います。

1984年通商産業省化学技術研究所入所。1993年カナダNRCにて在外研究。1995年通産省生物化学産業化課。
1996年生命工学工業技術研究所。1997年フランスCNRSにて在外研究（1年間）。2014年より現職。

石川 一彦

第3部　なんでも！ 相談コーナー　（16:10 ～ 17:00）　要予約

第2部の講師に加えて、産総研、ふくい産業支援センター、福井県商工会議所のコーディネータらがご相談に対応します。（講師以外の相談対応者については、別紙申込書をご覧ください）

▲ プログラム

お問い合わせはメールで：
fukui-site-ics-ml@aist.go.jp

主催：国立研究開発法人 産業技術総合研究所
共催：福井県、(公財)ふくい産業支援センター
後援：ふくいオープンイノベーション推進機構